

NPO法人 介護サービス非営利団体 ネットワークみやぎ



● 介護ネットみやぎ 2008 年度第 4 回理事会開催

3月11日(水)13時30分からフォレスト仙台 501号室にて、理事10人(内書面議決1人)幹事2人の出席で開催されました。

2008年度の決算見通し、「情報の公表」調査事業、第5回実務担当者会議、介護保険制度政策立案チーム、私たちがめざす介護保険とするための宮城県緊急会議、介護報酬改定等に関する要望書、懇談会等の報告事項と、2009年度総会開催要領、主要日程等の審議事項について提案し、質疑応答ののち提案された案件について全て承認されました。

《この間提出した意見書等》

- ①『「介護報酬の5%引き上げ」「介護職の人材確保の推進」「介護保険財源の国の負担割合の引き上げ」を求める要望書』(厚生労働省宛12月19日)
- ②「私たちがめざす介護保険とするための要望書(第二次)」(厚生労働省宛12月24日)
- ③『「平成21年度介護報酬改定に伴う関係省令の一部改正等について」に対する意見』(厚生労働省宛2月19日)
- ④「宮城県の第4期みやぎ高齢者元気プラン高齢者福祉計画・介護保険事業計画(中間案)」に対する意見書(宮城県宛1月16日)
- ⑤「仙台市高齢者保健福祉計画(介護保険事業計画)中間報告」に対する意見書(仙台市宛12月26日)

● 2008 年度第 2 回情報の公表事業推進委員会開催

3月13日(金)13時30分から15時30分まで、介護ネットみやぎ事務所において7人の出席で開催されました。「情報の公表」の調査について、2008年度「情報の公表」収支計算書(予想)、「情報の公表」制度をめぐる動き、公表センターと5調査機関打合せ会議、NPO法人介護ネットみやぎ理事会の報告がありました。

● 宮城県及び外部福祉団体が開催した研修を受講し修了

- ① 2月17日から27日までの5日間、宮城県主催の「平成20年度宮城県福祉サービス第三者評価調査者養成研修」が開催され、介護ネットみやぎ関係で2の方が受講し修了しました。
- ② 2月14日～16日の3日間で開催された財団法人シニアルネサンス主催の「市民後見人養成講座」に、介護ネットみやぎ関係から5の方が受講し修了しました。

介護ネットみやぎの基本理念

私たちは、いつでも、だれでも安心して暮らせる社会をめざしています。介護が必要な人にとって、体のケアだけでなく、心のケアも念頭においた利用者本位のケアプランが作成され、安心して介護サービスを受けられることが最も大切です。私たちは知恵と力を合わせ、良質な介護サービス提供と健全な事業運営のためにいっそうの研修にはげむとともに情報を共有しネットワークをひろげ、もって要介護者と介護者の人権擁護(尊重)、地域住民の福祉向上に資することを目的とします。

介護ネットみやぎ参加団体 宮城県生活協同組合連合会・みやぎ生活協同組合・生活協同組合あいコープみやぎ・松島医療生活協同組合・全国労働者共済生活協同組合連合会宮城県本部・みやぎ県南医療生活協同組合・JA宮城中央会・財団法人宮城厚生協会・宮城県高齢者生活協同組合・社会福祉法人仙台ビーナス会・社会福祉法人こーぶ福祉会・社会福祉法人宮城厚生福祉会・特定非営利活動法人ゆうあんどあい・特定非営利活動法人WACまごころサービスみやぎ・特定非営利活動法人ひまわり・特定非営利活動法人ほっとあい・特定非営利活動法人グループゆう・協同組合日専連仙台・宮城県民主医療機関連合会・宮城県労働者福祉協議会・宮城民医連事業協同組合

● 第5回介護ネットみやぎ実務担当者会議&拡大施設見学会を開催しました

2月12日(木)、社会福祉法人仙台ビーナス会が運営している小規模多機能型居宅介護施設「結いの館」(太白区東中田)の施設見学と小規模多機能型居宅介護サービスの現状についての学習会と第5回実務担当者会議を15人の参加で開催しました。

(1)施設見学

「結いの館」は、民家を改修しディサービス、ショートステイ、訪問介護の3サービスを備えた、地域密着の多機能型居宅介護サービス施設として、2007年4月から運営されています。

(2)学習企画

①高橋 治さん(仙台ビーナス会理事長)から、2006年度の介護保険改定で新設された地域密着型サービス「小規模多機能型居宅介護」について、現状の問題と今後の展望についてのお話を伺いました。

②小規模多機能型居宅介護「結いの館」の運営について、所長の齋藤信子さんから、利用者が在宅のまま地域で暮らしていけるトータルサポートを柱に運営されている状況を紹介いただきました。

(3)実務担当者会議

入間田範子介護ネットみやぎ事務局長が、介護報酬改定に向けた取組みなどの報告を行いました。



小規模多機能型居宅介護施設「結いの館」

● 『第4期みやぎ元気プラン』について、

「私たちがめざす介護保険とするための宮城県緊急会議」と宮城県が懇談会を開催

よりよい『第4期みやぎ元気プラン』とするために1月19日(月) 宮城県庁11階1107会議室において宮城県と「私たちがめざす介護保険とするための宮城県緊急会議」(以下緊急会議)の賛同者が懇談しました。出席者は宮城県から、長寿社会政策課課長本木隆さんほか8人、緊急会議からは呼びかけ人の大川昭雄さん(介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会代表理事・市民福祉団体全国協議会宮城県支部代表理事)、高橋治さん(仙台市老人福祉施設協議会会長)、樋口晟子さん(介護サービス非営利団体ネットワークみやぎ理事長)のほか、介護サービス事業者・介護サービス利用者の代表18人が参加しました。

樋口晟子さんと大川昭雄さんが、懇談会の目的などをまじえ開会の挨拶を行いました。宮城県の長寿社会政策課課長本木隆さんが元気プランについて概要説明を行ない、介護ネットみやぎの齋藤昭子副理事長と宮城県認知症グループホーム協議会の蓬田隆子会長がそれぞれの意見要望書について説明しました。

引き続き出席者全員から、介護現場の実情報告と元気プランへの意見・要望がだされました。主な意見要望として、成年後見制度の促進、介護報酬引き上げと人材確保、特別養護老人ホームの入所待機者の対策や個室だけではなく多床室を増床できるような条件のみなおしなどが述べられました。

宮城県は、「県民からの意見を求め(パブリックコメント募集・懇談会等)、提示した中間案に盛り込むべきことは盛り込みます。」と締めくくり、呼びかけ人の高橋治さんの挨拶で閉会としました。



介護ネットみやぎ樋口晟子理事長の挨拶

● 福祉サービス第三者評価事業第5回検討委員会（以下 委員会）を開催

委員会を1月26日(月)13:30から、介護ネットみやぎ事務所で開催しました。

＜検討事項＞

- ① モデル事業の依頼先について一会員団体に所属する保育所に、以下の依頼することを確認しました。
 - ・評価は「宮城県福祉サービス第三者評価基準(保育版)」を使用し、「従業者からの自己申告」と「利用者アンケート」も組み入れて行なう。
 - ・モデル評価の完了後、実施したモデル事業の総括と本事業の展望等の検討を行なう。
- ② 実務手順・体制について、以下の確認をしました。
 - ・体制は、評価調査者2人、評価検討者5人(評価者3人+評価調査者2人)。
 - ・保育士等専門家の参画についても検討する。
 - ・次年度からの推進体制については、今後具体化する。



● 第三者評価モデル事業に協力の依頼

3月4日(水)10:30から会員団体に保育所の第三者評価モデル事業の協力のお願いを行いました。会員団体の理事長と保育関係者に対応いただきました。

理事長から「国は少子化対策を進める施策の中で、新たな保育制度を決めようとしており、その中に、保育所の『自己評価』『第三者評価』の義務化の検討もされている。事業者はもとより利用者にとっても有益で、より質の高い公平な評価を求めている。」という状況についてお聴きました。また、以下の点について要望があり、4月下旬までに介護ネットみやぎとして検討し、うちあわせを行なうこととしました。

- ① 公平性・信頼性の検証として複数の保育所でモデル事業の実施を検討する。
- ② 保育分野の有識者・経験者等が参加した、推進体制が必要である。

【情報】 成年後見制度の理解促進とマンパワーの養成のために

(財)シニアルネサンス財団(会長田中一昭)が主催する「市民後見人養成講座」が仙台市でも開催された。この講座は、ホームページによると08年10月から09年3月まで、北海道から沖縄県まで全国35都道府県45会場で開催されている。講座は、新規研修として基本は3日間9コマ18時間のスケジュールである。09年2月14日(土)～16日(日)の仙台会場の受講生は50人、介護ネットみやぎからも「成年後見研究チーム」メンバーを中心に5人受講した。また、仙台市社会福祉協議会・せんだいみやぎ成年後見支援ネットが共催した「市民後見プレ講座」(福祉医療機構助成)が、2月から3月に6日間36時間講座で開催されている。

成年後見制度の改正は、介護保険制度と共に、民法改正法案等の関連四法案が2000年4月に施行された。成年後見制度は、判断能力が不十分な人を支えるための法律上の制度であり、具体的には、判断能力が不十分な人の生活、療養看護、および財産の管理に関する事務を、代理人が行う仕組みである。この制度の相談相手は、一般的には弁護士、司法書士、社会福祉士等の専門職の方々である。最高裁判所事務総局家庭局から毎年1回成年後見制度の利用状況が発表されている。2000年の改正以来、成年後見制度利用数は15万人と増加している。認知症高齢者・知的障がい者・精神障がい者・高次脳機能障がいの必要な方々に情報が届き、身近に相談できる体制を整えていくことが今後とも重要である。成年後見制度の理解促進とマンパワーの育成が求められている。

「市民後見人養成講座」の中で紹介されたDVDがとてもわかりやすかったので、ご案内したい。製作した(財)シニアルネサンス財団は2つのDVDを有料にて紹介している。

- DVD「成年後見制度～支えあう社会をつくるために～」5,250円
- DVD「成年後見制度～それぞれの幸福～」5,250円

(財)シニアルネサンス財団
HPアドレス <http://www.sla.or.jp/>
TEL 03-3230-1771

● 介護ネットみやぎ 2008 年度第 5 回調査員研修報告

1月23日(金)10時30分から15時30分までフォレスト仙台5階501会議室において、調査員38人の出席で開催しました。

はじめに、情報の公表の確認事項である「事故の発生又は再発を防止するための仕組みや緊急時や非常災害時の対応」について、ケアグループ木もれび統括責任者の山崎彰子さんに事業所で使用している「緊急時対応マニュアル」「緊急時の連絡方法の手順」「事故防止、対応マニュアル」「災害対応マニュアル」「災害時指示報告フロー図」「災害対策職員行動ガイド」を基にわかりやすく説明していただきました。主な内容は、①法人理念を基にケア理念があり、職員の行動基準を示しマニュアルを作成する。②事故や感染症の防止は、事業経営上とても大事なこと。ヒヤリハットやインシデント(小さな気づき)をもとに事例検討会を実施する。③非常災害時のヘルパー対応のマニュアル(家族がいる場合、いない場合)を利用者の状態に応じたものを具体的に示す。また、調査員からの情報によると町内会で防災対策を行い、協定書を結んだり、防災モデル案を作成し、高齢者一人暮らしのお宅でカラーの札や布を使って身の安全を知らせている所もあるそうです。次に、調査員が6グループに分かれ、「今年度の反省と来年度にむけて」と題して話し合い発表しました。出された意見を次回の向上委員会で検討し、来年度に活かしていく予定です。

● 2008 年度第 6 回調査員研修報告・施設見学会

「特別養護老人ホームと住宅型有料老人ホームについて学ぶ」

3月6日(金)に調査員30人の出席で施設見学をしました。

(1) 仙台フィンランド健康福祉センター

①特別養護老人ホーム「せんだんの館」(〈社福〉東北福祉会)では、10人の住居を1ユニットとして、100人の利用者が入所しています。フィンランド型福祉を取り入れ残存機能維持という点に介護の焦点をおき、パワーリハビリや流水プールなどによる脚力からの健康維持を目指しています。トイレは、車椅子でも自分の力で移動して排泄できるように手すりなどの位置が工夫されています。また、地域にカフェテリアや介護予防のリハビリを提供したり、クラブ活動の場として施設を開放しています。

②研究開発館(設置運営:(財)仙台市産業振興事業団)は、仙台の企業とフィンランド企業が大学等の学術機関、ユーザーと連携しながら健康福祉機器・サービスの共同研究開発を行っています。せんだんの館から、研究開発館へのニーズ情報の提供や開発された機器・サービスの評価等をうけています。高齢者の自立した生活を実現するためのトイレや台所のモデルルーム、ノルディックウォーキング用のステッキ、着替えしやすい衣類や履物、見守りセンサー、新築やリフォーム対応のプレゼンや積算・見積システムソフト、介護者のために開発中のマニュアルソフトなどが展示されています。

(2) (株)デザイン工房「ギャラリー杜の音」

『住宅型有料老人ホーム』に『ディサービスセンター』『ヘルパーステーション』『ケアプランセンター』を複合させて、自然・居住・医療・福祉・スタッフの5つの環境により多様な“つながり”を演出し、シニアの尊厳と誇りある暮らしをサポートする新しい時代の福祉システムを目指しています。居室面積と入居一時金価格、一時金の償却期間及び返還金、利用権の3親等間での継承設定、毎月必要な料金などの説明を聞き、モデルルームやラウンジギャラリー、展望露天風呂などを見学しました。病変時等の緊急対応や防犯対応システムが配備され安心・安全・快適な生活ができるように工夫されていました。



社会福祉法人東北福祉会「せんだんの館」